

MOLCURE と FRONTEO、 AIを活用した創薬 DX 推進に向けて業務提携

株式会社MOLCURE（本社：神奈川県川崎市、代表取締役：小川隆、以下MOLCURE）と株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本 正宏、以下FRONTEO）とは、AIを活用した創薬DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進に向け、業務提携契約に関する基本合意書を締結しました。



FRONTEOは、ライフサイエンスAI事業において、膨大な量の論文・文献情報を短時間で解析する論文探索AIシステム「Amanogawa」や、疾患に関連する分子・遺伝子をパスウェイマップ状に表示し関係性と全体像を可視化する創薬支援AIシステム「Cascade Eye」など、創薬DXを推進する様々なソリューションを開発・上市しています。

MOLCUREはAI・進化分子工学・実験自動化技術を統合した、バイオ医薬品分子の設計技術を有するバイオベンチャー企業です。ペプチド・抗体医薬品の分子設計を強みとし、既存技術では開発が困難であった医薬品の構造創出、既存分子の改良設計、候補物質の短時間での探索などを行っています。

この度の提携により、両社のAI技術を活用して、例えばFRONTEOが新規治療薬やドラッグリポジショニングのターゲット発見・選定、MOLCUREが分子設計を行い、候補選定から有効性・実現可能性の確認までを迅速に行うAI創薬モデルの構築など、創薬研究における大幅なスピードアップ・効率化の実現が可能となります。また、医療・創薬現場に向けたより汎用性・実用性の高いAIソフトウェアの研究開発など、創薬支援事業のさらなる強化にも資するものと考えます。

FRONTEOについて (<https://www.fronteo.com/>)

FRONTEOは、自然言語処理に特化した自社開発AIエンジン「KIBIT」と「conceptencoder」を用いて膨大な量のテキストデータの中から意味のある重要な情報を抽出し、企業のビジネスを支援する、データ解析企業です。2003年8月の創業以来、企業の国際訴訟を支援する「eディスカバリ（電子証拠開示）」や、「デジタルフォレンジック調査」というリーガルテック事業をメインに、日本、米国、韓国、台湾とグローバルに事業を展開してきました。リーガルテック事業で培ったAI技術をもとに、2014年よりライフサイエンス分野、ビジネスインテリジェンス分野、OSINTへと事業のフィールドを拡大し、AIを用いて「テキストデータを知見に変える」ことで、創薬支援、認知症診断支援、金融・人事・営業支援など、様々な企業の課題解決に貢献しています。2007年6月26日東証マザーズ上場。2021年1月第一種医療機器製造販売業許可（許可番号：13B1X10350）を取得。資本金2,568,651千円（2020年3月31日現在）。

MOLCUREについて (<https://molcure.com/>)

株式会社MOLCUREは、AI・進化分子工学・次世代シーケンシング・実験自動化技術を駆使した独自の高性能バイオ医薬品分子設計技術を有するバイオベンチャー企業。既存技術では開発が困難であった高性能医薬品を創出し、革新的バイオ医薬品の発展に貢献しています。

<お問合せ先>

株式会社 MOLCURE

FAX: 0235-26-8107 Email: contact@molcure.io